

平成21年度第2回定例会

日 時： 平成21年7月31日（金）午前10時～

場 所： 本館 講座室

---

- (会長) 図書館からの諮問「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について」引き続き協議する。
- (事務局) (前回の図書館協議会で出た資料要求や質問事項について説明)
- (会長) 望まれる図書館像を実現するための要素について、もう少し意見をいただきたい。
- (委員) 会議の進行について、前回の「委員の意見のまとめ」について、何も話し合っていない。多摩市の未来や図書館像などは前回の定例会で少し話し合ったので、どのような資料が必要か、学校との連携についてはといった、話しやすい材料からまとめていった方がいいのではないか。
- (委員) 答申は何年に1回出すものなのか。
- (事務局) 昨年の10月に「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について」という諮問を出し、この会議の中で議論いただき、来年の4月までに答申をお願いするということだ。
- (委員) その答申はあくまでも「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について」である。それに絞った答申について討議するのであれば、熱心に建設的な意見が出し合えると思うが、今のような形で意見を一般化するとすると、問題に肉薄しない形で終わる。
- (委員) 何度も同じような議論をしているので、中央図書館が必要なかどうか、必要ならここに建てるのか別のところに建てるのか議論し、必要なら中身に入っていきようにしないと、いつまでも話し合いの焦点が定まらない。
- (会長) 今の段階では、委員の意見がはっきり上がってきていないので、中央図書館が必要かどうか、そのためにはどのような資料やスタッフが必要かなど、もう少し議論できれば次のステップにいけると思う。中央図書館を多摩センター駅に置くのか、それともここで中央図書館とするのか2通りあると思う。新しい施設ができるのが最終目的であるが、どこで折り合いをつけるか。例えば新しい資料は書物であるのか映像であるのか。どういう形の図書館を希望としているのか。
- (委員) 市で土地があつたりするのなら別だが、無理なことを話してもここで我慢するしかない。パルテノン多摩の隣がいいといっても、そのような候補地があるのかどうか、加味しながら進めないと空回りするだけである。方向性について、市全体を参考にした方がいい。

- (会長) 多摩センター地区の図書館を建てる財政的な余裕はあるのか。
- (事務局) ここは10年暫定であるので、その間に建設といったことはないと思う。歳入に関しても土地についても難しい。平成10年の「多摩市立図書館の施設整備及び図書館サービスのあり方について」という答申の時点では、全体構想に中央図書館を建てる構想はあったので、それを前提に独立館を建てるといった答申を頂いている。しかし方針として中央図書館が中央図書館機能という言い方変わった。この本館を、中央図書館と看板を付け替えれば済むがそれでいいのか、中央図書館と呼ぶにふさわしい機能は何なのか、ということ話し合っている。
- (委員) 校庭は広くここを中央公園と一体化して、中央図書館機能に近い本館を建設していく。環境に配慮した図書館は多い。「森と湖の図書館」として目玉になるような資料等をいくつか持てば、現実的に可能なイメージを受ける。駅前になければならない必然性は、やや薄い。人を惹きつける文化的な環境を作り上げることが、市民には大きくプラスになると思う。
- (委員) 漠然とした協議である。いろいろな意見が出ているとまとまりにくい。前回の「委員の意見のまとめ」の項目は骨子としてなりそうなのか。
- (事務局) 骨子の一部になりそうな見込みのあるものを「多摩市の図書館像を描くために」に出し、委員に意見を出して頂いた。骨子は委員に決めていただくものであり、平成10年の答申も、骨子の参考になるかと思う。
- (委員) 中央図書館機能、建設も含めそれを中心とした答申に絞り、建設するかどうか、どこに建てるか可能性はあるか、機能は何かを話し合ったほうがいい。
- (委員) 前回の平成10年の答申に添って、改訂版として比較したほうが、討論も整理されやすいのではないかと。中央図書館機能に話題を集中させるのなら、新しい箱物をつくるのかどうか、今あるものを生かすのかどうかということは、避けて通れず、結論を出さなくてはいけない。最初に建設の是非と、既存の建物についてまとめ、そこからここにある項目に基づいてやっていった方が作文しやすいのではないかと。
- (委員) 賛成である。
- (事務局) 図書館は3大要素または4大要素といわれ、資料、建物、人、そして機能である。この平成10年の答申は、建てることを前提として、どのようなものが欲しいかというものなので、なぜということが足りない。なぜ100万冊必要なのか、なぜ1万㎡必要なのかということに言及していない。そのような「なぜ」の部分について、中央図書館機能とは何なのかということ答申をいただきたい。
- (委員) パルテノン多摩といった目玉と連動するように、文化の中心となるよ

うな新しい図書館を、多摩ニュータウンの新しい未来を文化とともに切り開くといったものにする。文化の中心となる図書館をつくらどうか、といった哲学を前ふりにする。その上で新しいものができることができるなら、この多摩センター付近だし、無理なら本館でもいいが、建物は改修しなくてはならないので、ここでも新しいものを用意すべきである。

(副会長) この本館は、面積はあるが旧本館の暫定 10 年の施設であり、広すぎて使いにくい。職員が大変である。中央図書館機能がここにあるとは思っていない。多摩市は調べものをするとき、資料が分散していて欲しいものが手に入らない。ここにいけば資料を案内してくれる司書がいるというような信頼のできる図書館が必要であり、そのほかにゆっくりしたいという要素はあると思うが、きちんとつくるべきである。

(委員) 場所の可能性はどこにあるか。ロケーションは極めて重要である。多摩センターかと思うが、既成の土地があるのか、本館ほどの広さはないだろう。不便というのは現状が不便であり、便利にすることは可能である。この全体的な文化環境は日本の中でも誇るべき環境である。そのような意味で、廃校施設としては惨めなイメージだが、可能なものは活用しながら、校庭に中央図書館にふさわしいものをつくり上げるということは可能である。

(副会長) 場所は駅に近い方が利用は多い。仮に本館を利用するにしてもここをゼロにしないと、この本館は暫定的にやむを得ず使っている。全ての図書館ネットワークがあつてはじめて図書館が機能するので、きちんとした資料の数、職員の数、質も含め多摩市には必要である。

(委員) 駅前の 1 万㎡の土地を購入し建物を建てることは、絵に描いた餅のようだ。唯一箱物にこだわるのなら、この本館の敷地であると考えられる。校庭なら建物、駐車場など現実可能である。それでも多摩市の財政状況を考えるととても難しい。実現可能な方向性として、次の選択は今の建物をどう活かしていくか、ということになる。いつまでも理想論では実現できない。私たちの中央図書館のイメージは、大きな箱物が建ち、その中に様々な機能があるというが、考え方の違いである。紙ベースから電子媒体にどんどん移行している中で、どんなニーズにもというようなことは難しい。冊数は 50 万冊でもいいが代わるものとして、検索システムや技能、知識を持った司書が常駐しているといった考え方をしていったほうがいい。発想の転換をしていけば、今の校舎を元にした増改築をすればいいものができるのではないかと。

(委員) 理想論も少しは言った方がいい。既設の建物を再利用するということは、重要性を認識している。耐震補強をし、瀟洒なものを少し建て、樹

木を植え込んで、利便性を図るように努力していくといった議論をし、可能性を探っていく必要がある。他に場所があればそれも含むように、きちんとつくる意見も活かしていけばいいと思う。

(委員) 市役所の建替えや、廃校になりそうな学校はあるのか。

(事務局) 市役所の庁舎も古く、耐震補強工事を実施したので10年は使う。また統廃合について、貝取・豊ヶ丘地区の小・中学校の統廃合を進めている。

(会長) この本館も10年経ったらどうなるのか。しかし適当な場所がないのなら、ここが確保されているわけだから、それに向かって付加価値をつけ、よりよいものをつくっていくかの方針を決め、図書館協議会ではそのような形で話していくしかない。

(委員) 現実的に夢物語を書いても仕方ないと思うのだが、せっかく話し合い答申を出すのだから、あえて少しは景気付けをした方がいい。図書館で街を活性化するにはといったものを出さないで。

(委員) この本館を中央図書館にするとしたならば、設備面の充実があったらというものはあるか。

(事務局) 空調設備、給排水設備などの改修が必要である。

(事務局) 学校なので、廊下の音が響く。校庭はスポーツ団体が使っており、図書館利用者との共存や、駐車場の問題などの運営面はあると思う。

(会長) そういった部分もきちんと受けていかないと、持っているマイナスの部分もあると思う。

(委員) 中央図書館は他の図書館に負けないといったイメージがあるのだが、現実的に違う。身近にある図書館の充実の方が、市民が喜ぶのではないか。中央図書館は小さくても、各図書館のセンター機能を持ち「小さくて森の中にあるかわいらしい図書館」といった特色のある図書館として割り切っていく。

(委員) 新しく図書館を建設するという意見も活かせるよう考えていかななくてはならないし、現状を徹底的に捉えた上で、現状の改善という意見もある。現状を改善するのではなく、小さな図書館をつくってもいいのではないかという意見もある。次回、集中的に場所の問題も含めて取り上げてやれば有益だと思う。そのように集約していただければと思う。

(委員) 前回の答申は漠然としている。今回の諮問の柱を考えると、資料2の「多摩市民まちづくり討議会からの提案に対する図書館の考え方」の中の、4つの項目と建設に係る意見を含め、5つくらいに絞り委員の意見を組み込まれていく方がいいのではないか。

(会長) 方向性については、次回考えていく。

(副会長) 資料2の「多摩市民まちづくり討議会からの提案に対する図書館の考

え方」については、無作為抽出で選ばれた方の意見の集約であるので、平成10年の答申をベースとした筋立ての方がよいのではないかと。

(委員) 柱立ての項目としては、資料2の項目の方がいいと思う。

(副会長) (「ご意見申し隊」についての募集の仕方、本館の時間延長の試行アンケートの印刷の徹底)

(会長) これで定例会を終了する。